

第4回がん哲学外来市民学会認定コーディネーターアドバンスコース

日 時: 2020年5月23日(土)13:00~17:00+α

会 場: 金沢大学附属病院宝ホール(外来棟4階)

〒920-8641 石川県金沢市宝町13-1

主 催: がん哲学外来市民学会

担当カフェ: 北陸地区がん哲学外来

【プログラム】(総合司会)金沢がん哲学外来事務局長・金沢大学公衆衛生在宅看護学准教授 岡本理恵

時間	項目	具体的内容
13:00~	開会挨拶	福井県済生会病院 外科主任部長・集学的がん診療センター長 宗本 義則
13:10~	ガイダンス	ガイダンス内容:未定
		一般社団法人がん哲学外来・学会担当理事
		東海大学医学部血液・腫瘍内科教授 安藤 潔
		ガイダンス内容:未定
		がん哲学外来コーディネーター認定制度委員長
		福井県済生会病院外科主任部長・集学的がん診療センター長 宗本 義則
13:30~	講義「死との共生を考える」	講師:金沢がん哲学外来代表
		金沢大学附属病院緩和ケアセンター長 山田 圭輔
14:00~	グループワーク	メインテーマ:お茶を飲みながら自由に語る
		進行担当:金沢がん哲学外来代表 山田圭輔
		グループワーク①14:00-15:00 サブテーマ:自分マップを作ろう
		休憩時間15:00-15:30
		グループワーク②15:30-16:30 サブテーマ:老病死から詩が生まれるを考える
16:30~	発表会準備	16:30~16:45
16:50~	発表会16:50~17:30	進行担当: 金沢がん哲学外来 認定コーディネーター 長谷部孝美・小石川均
17:40~	記念写真	
17:50~	閉会挨拶	次期担当カフェからの挨拶
18:00~	交流会	認定コーディネーター間の交流時間(1時間ほど)

□参加者への事前資料 アドバンスコース紹介

第4回がん哲学外来市民学会認定コーディネーターアドバンスコースの紹介

お茶を飲みながら自由に語る

金沢がん哲学外来 山田圭輔

令和2年5月23日に第4回がん哲学外来市民学会認定コーディネーター・アドバンスコースを金沢市で開催します。メインテーマを「お茶を飲みながら自由に語る」とし、グループワーク①を「自分マップを作ろう」、グループワーク②を「老病死から詩が生まれるを考える」としました。両グループワークとも、事前に各人の考えを準備しておき、ワーク中に作品として仕上げてもらい、小グループ内（あるいは全体）で発表する予定です。

がん哲学外来の基本は、お茶を飲みながらお互いがリラックスして話すことです。人は、老病死等の苦境にある時には、怒り、否認、抑うつ、不安などに囚われてしまい、自分の存在を無意味で無価値と思い、絶望してしまいます。このように病気ばかりを考えすぎると本当の病人になってしまいます。

そのような時は、病気はあっても病人ではないとの考えを思い出し、一旦は悲哀の感情から離れ、悲哀の時こそ好きの気持ちを思い出すことが必要です。自分自身の存在を難しく考えるのではなく、何が好きで、何をあるいは誰を大切に思っていて、どんなことをやりたいかといった素朴なものの集合体が自分であるとの考えです。グループワーク①では、支援者が自分自身の存在をもう一度思い出し、初対面であってもお互いに話し合うきっかけになる自分マップを作ってもらいます。好きなものをたくさん書きましょう。

グループワーク②は、①と同様にまずは自分が好きな詩（言葉）を取り上げましょう。次いでもう一度心を逆転して、悲哀の時には悲哀の詩（言葉、歌、物語）を口ずさみながら人々が生きのびてきたことを思い起こしましょう。夏目漱石¹⁾の言葉を借りると、俗念を放棄して、しばらくでも塵界を離れた心持ちになる詩を探して（自分で創って）みましょう。釈迦や良寛や正岡子規や万葉集などはどうでしょうか²⁾。平家物語や岸壁の母や流れる星は生きている³⁾や夕凧の街 桜の国⁴⁾などはどうでしょうか。なかなか気がつきにくいものです、皆で話し合しましょう。

参考文献

- 1) 夏目漱石：草枕。小学館文庫
- 2) 大井 玄：病から詩が生まれる：看取り医がみた幸せと悲哀。朝日新聞出版
- 3) 藤原てい：流れる星は生きている。中公文庫
- 4) こうの史代：夕凧の街 桜の国。双葉社